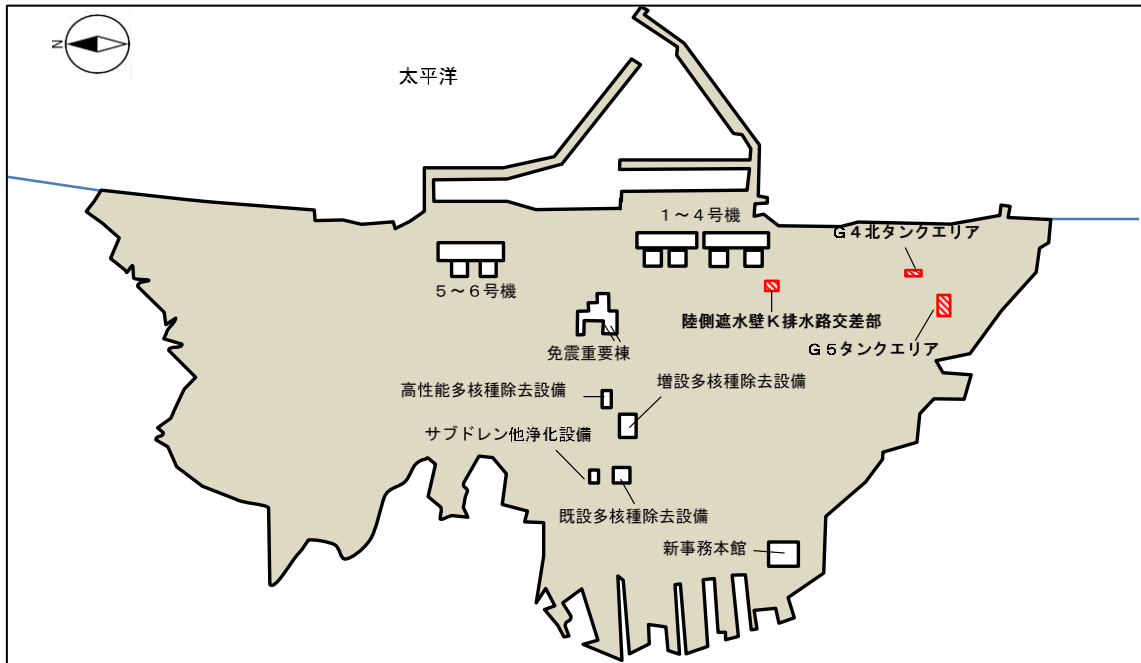


福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年10月29日（金）
- 2 確認箇所
(1) G4北タンクエリア、G5タンクエリア
(2) 陸側遮水壁4号機南西側
- 3 確認項目
(1) G4北タンクエリア及びG5タンクエリアにおける溶接型タンク設置工事の進捗状況
(2) 陸側遮水壁測温管の温度上昇の状況
- 4 確認結果の概要
(1) G4北タンクエリア及びG5タンクエリアにおける溶接型タンク設置工事の進捗状況について
東京電力ではALPS処理水の海洋放出にあたり、K4タンク群の用途を変更して放射能濃度の測定、評価用の設備を新たに構築することとしている。K4タンク群を用途変更することに伴う代替として、G4北タンクエリア及びG5タンクエリアにALPS処理水等を保管する溶接型タンクを設置する工事が開始されていることから進捗状況を確認した。（図1）（前回確認：9月1日）
 - ・ 現地溶接型の容量1,356m³のタンクがG4北タンクエリアに6基、G5タンクエリアに17基、設置される計画となっている。
 - ・ G4北タンクエリアでは、5基のタンクの底板と胴板が組み立てられていた。（写真1）
 - ・ G5タンクエリアでは5基のタンクの底板と胴板が組み立てられており、その内2基は、タンク内面と外面の塗装が進められていた。（写真2）
 - ・ 組み立て中のタンクの内部では、タンクの底板の溶接作業が実施されていた。作業員は、溶接用防護服、防塵マスクの着用をしていた。また、溶接作業周囲に可燃物を置いていないことを確認した。（写真3）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
G4北タンクエリアの状況
(前回(9月1日)南西側から撮影)



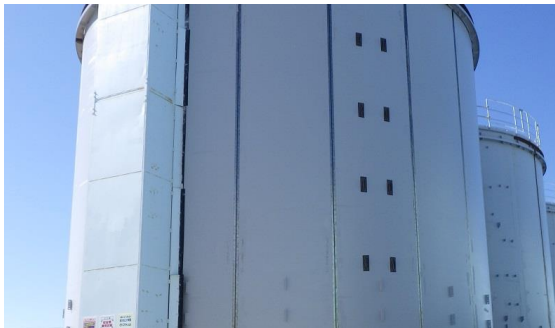
(写真1-2)
G4北タンクエリアの状況
(今回(10月29日)南西側から撮影)



(写真 2-1)
G 5 タンクエリアの状況
(前回(9月1日)南東側から撮影)



(写真 2-2)
G 5 タンクエリアの状況
(今回(10月29日)南東側から撮影)



(写真 2-3)
塗装前のタンク



(写真 2-4)
塗装後のタンク
(左とは別のタンク)



(写真 3)
タンク底板の溶接作業

(2) 陸側遮水壁測温管の温度上昇の状況について

10月28日、K排水路と交差している陸側遮水壁の一部（地表面から1～4m付近）の温度が8月27日ごろから上昇していることが東京電力より公表された。東京電力は、原因として交差するK排水路にクラック等の隙間が生じ、凍結範囲に水が漏れていると推定している。また、地下水位に変化はないことから陸側遮水壁の機能に影響はないとしている。今回は陸側遮水壁温度が上昇している部分の地表周辺の状況を確認した。（図1）

- ・ 温度が上昇している測温管の頂部を確認した。（写真4）
- ・ 周囲のブライン供給管頂部の状況を確認した。（写真5）
- ・ 付近にはK排水路に入るための立坑があり、排水路に水が流れているのを確認できた。また、周囲には作業をした形跡があった。東京電力によれば、K排水路のクラックを調査するために、ドライアップ（流れている水を一時的にバイパスする）の準備をしているとのことだった。（写真6）



（写真4）
測温管頂部（150-7S）の状況



（写真5）
ブライン供給管頂部の状況
（手前が測温管 150-7S に一番近いもの）



（写真6）
K排水路立坑の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。